

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2016. 12
No.280

今回は、先日行われた品質大会でお願いしたことをもう一度皆様にお伝えします。

TPMと品質

TPMとは「トータル・プラント・マネジメント」の略で、イナテックではこのTPMを経営の手段（ツール）として活用しています。

ではなぜ「TPM大会」ではなく、「品質大会」なのか、との問いにお答えします。

『品質』は、TPMがベースになっているということですが。

TPMの目的は、

- ・製造設備に強い人づくり
 - ・製品に強い人づくり
- です。

そして、イナテックの特色は間接の人も含め、「製造設備に・製品に強い人」になってください、ということですが。

故障は諸悪の根源

「故障」とは、“故意に“障害”を起こすことです。設備は決して勝手には壊れません。故障は“人”が発生させているのです。

報告で「社長、機械が壊れました」「機械が故障しました」と言われるのですが、“故障”の約90%は『強制劣化』です。『自然劣化(寿命)』は10%弱しかありません。

ですから『故障、故障』と皆さんが言っているのは、強制劣化なのです。製造設備に強くなれば、機械故障はゼロになります。

機械故障という「変化点」がなくなれば、監督者の方々の負担が軽減され、お客様に『高品質の製品』が効率的に提供できるわけです。

他にも「変化点」は、故障による異常処置、忙しくて日常管理ができなくなる、教育記録がないまま作業に従事させてしまう、などが挙げられます。これらが“ロス”の塊になって、結果

としてお客様に品質不良という形でご迷惑を掛けてしまうわけです。

目指そう！『相互啓発型』で

お客様品質不良ゼロ

今回ある部品でお客様にご迷惑をお掛けしましたが、各部署がもう少しTPMの目的である「製造設備に・製品に強く」なると、「相互啓発型」であれば、不良が流出しなかった案件です。検査部署は製造に報告したままフォローがありませんでした。

イナテックの企業理念でお願いしているのは「フェイス TO フェイス」「ハート TO ハート」が基本です。「見て見ぬふりのイナテックは会社潰れます」と毎回お話ししています。

デュボン社が示している「相互啓発型」とは、まさしくイナテックの企業理念そのものだと思います。

イナテックの「フェイス TO フェイス」「ハート TO ハート」は、

1. 仲間に対する働きかけ
2. 仲間との相互注意

3. 仲間への思いやり
 4. 積極的な情報の共有化
 5. 他人に対するケア
 6. 組織に対する誇り
- に置き換えられます。
- 私のいつもの言葉で言わせていただくと、「仲良くクラブ」ではなく「仲良く喧嘩」することなのです。

クリアコミュニケーション

この“相互啓発”の手段として大切なのは、クリアコミュニケーションです。

「クリアコミュニケーション」とは、『事実在即した適切な(文書)表現のこと』、つまり、なるべく具体的な数値で伝達できることなのです。

例えば、「暑い・寒い、ちよつと大きい、少しビビっている、もう少し早く、このくらい時間で、月末まで、その日にやります、・・・」などです。

日本人にとっては“あいまいで”使いやすい表現なのですが、ビジネスの世界ではクリアコミュニケーションを使うべきです。そして、クリアコミュニ

ケーションで相互啓発しましょう。これが「フェイス TO フェイス」「ハート TO ハート」なのです。

ご家族の皆様へ

2017年はイナテックの使命である「人づくりを通して、お客様に100%良品をお届けする」を必達しようではありませんか。

本年もご協力ありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。

我が社なら必ずできます。

四二

此身常放在閑處、榮辱得失、誰能差遣我。此心常安在靜中、是非利害、誰能瞞昧我。

此の身を、常に物にとらわれない余裕のある立場に放しておけば、世上の榮辱や得失をもって、たれがわたしの身を追いやることができようぞ。また、此の心を、常に事に乱されない静かな境地に安んじるようにしておけば、世上の是非や利害をもって、たれがわたしの心をだましくらすことができようぞ。

